

第二部 これからのJPCOARを考える 実務担当者的心声～JPCOAR若手作業部会員から

オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）

コミュニティ強化・支援強化作業部会

大園 隼彦（岡山大学）

次期活動期間に何をしたいか？①

- JPCOARコンテンツ収集プロジェクト

1. 会員機関で協働して著者原稿収集

各機関で収集：第一著者のみに依頼すると、依頼できない論文が多数ある。

→ 協働すると効率的では？（希望する会員館のみ） → **第一著者依頼DBに**

Webフォームに

①送信先アドレス（第一著者）、②送信元アドレス（第一著者の図書館）

③DOI（論文情報）、④登録条件 を入力、定型依頼文を生成しメール送信

1.送信先メールアドレス

2.送信元メールアドレス

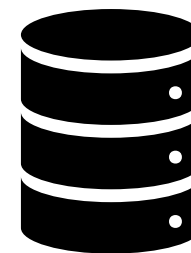
3.DOI

4.登録条件 (内容)

5.登録条件 (情報源)



メール本文を成型して送信



第一著者依頼DB

入力した情報をDBに蓄積

次期活動期間に何をしたいか？②

- JPCOARコンテンツ収集プロジェクト

2. 著作権ポリシーデータベース改

第一著者依頼DBに著者最終原稿の登録条件が蓄積される

：登録作業の度に更新される著作権ポリシーデータベース

著者原稿収集プロジェクトに参加しない機関も参照可能

次期活動期間に何をしたいか？③

- researchmap連携

(ORCID) → researchmap → リポジトリ

researchmapにすべての研究成果情報がタイムリーに登録され、

かつリポジトリに本文が流れてくるのが理想

識別子の普及・整理・連携が必須

次期活動期間に何をしたいか？④

- JPCOARとして研究者コミュニティにOAに関する情報発信が必要
例えば、著者最終原稿をリポジトリに登録する意義を数値で示す
→リポジトリの利用状況分析
全国の機関リポジトリに約42,000件のAM（2021.11時点）
利用状況を研究者コミュニティにアピールできないか？

次期活動期間に何をしたいか？⑤

- まずは実践してノウハウを固める。

先行する会員機関をサポート → JPCOAR全体にフィードバック

- JPCOARデータリポジトリは有り？

利用面：機関別よりも分野別が求められているのでは？

保存面：長期保存の問題は各機関で対応できる？

運用面：ノウハウの蓄積後、必要に応じて各機関にのれん分け？

JPCOARのあり方

- ・ JPCOARはコモンズのような存在に。

会員機関は自機関の利益の最大化を目指し、JPCOAR全体に還元される形。

- ・ 会員機関の活動をJPCOAR全体に還元するには

①ルールが必要。 → 活動方針

活動の方向性が決まることで、協働できる。

②協働するためのインセンティブが必要

機関のインセンティブと個人のインセンティブ

どんなインセンティブ？

- 機関のインセンティブ

- 会員機関のグッドプラクティスをJPCOAR（作業部会）がサポート

- JPCOAR全体で多様なグッドプラクティスを参考にできる

- JPCOARコンテンツ収集プロジェクト、データリポジトリ

- 個人のインセンティブ

- 作業部会員の参加 → 個人の研鑽の機会 + 機関会費の割引？

- グッドプラクティスへのアピール

JPCOARプロジェクトの推移イメージ

